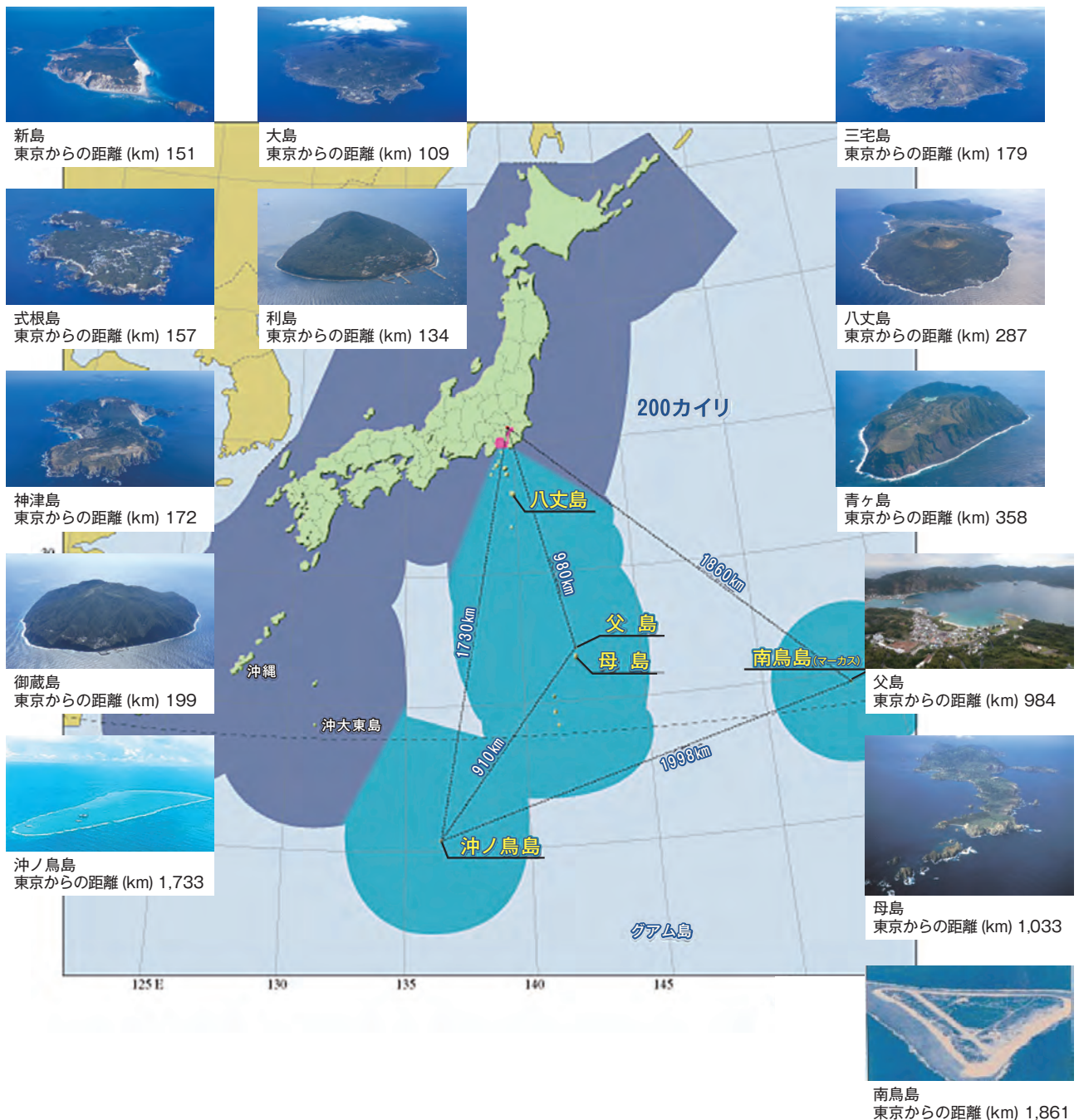


第1章 東京の水産業の概況

東京の水産業は、奥多摩から伊豆諸島、小笠原諸島に至る南北の広い範囲で営まれており、地域によってその形態も様々です。

- 1：島しょ地域の水産業
- 2：東京内湾の水産業
- 3：内水面の水産業
- 4：漁業生産量など
- 5：漁業就業者数など
- 6：漁船数
- 7：漁業協同組合
- 8：島しょ地域の漁港・港湾

東京の島々と排他的経済水域



*排他的経済水域：我が国では、国連海洋法条約に基づき、沿岸から200海里（約370km）の範囲で、漁業資源や鉱物資源など天然資源の探査、開発、保存及び管理等、主権的権利を行使することができる排他的経済水域を設定しています。

なお、日本の排他的経済水域の面積は約447万km²で、世界で6番目の広さです。

東京の水産業の概況

1 島しょ地域の水産業

伊豆諸島から小笠原諸島に至る島しょ地域の水産業は、地域経済を支える基幹産業となっています。また、この周辺海域は我が国有数の好漁場であるため、都の漁業者はもとより他県の多くの漁業者による操業も行われています。

伊豆諸島では、サザエ・テングサなどの貝類や海藻類を対象とする潜水漁業のほか、キンメダイなどを対象とする底魚一本釣り漁業や曳縄漁業、刺網漁業などが、また小笠原諸島では、ハマダイなどを対象とする底魚一本釣り漁業やメカジキなどを対象とするたて縄漁業など、様々な漁業が営まれています。さらに、伊豆諸島では伝統的な水産加工品である「くさや」の製造に加え、近年では低・未利用の水産資源を活用した新たな加工品づくりの取組も始まっています。

なお、都の伊豆諸島、小笠原諸島といった島々を基点とした排他的経済水域の面積は、日本全体の約38%にも及ぶ広大なものとなっています。

～伊豆諸島～



サザエ



キンメダイ



漁港での水揚げ

～小笠原諸島～



ハマダイ



メカジキ



漁港での水揚げ

2 東京内湾の水産業

東京内湾*は、かつては遠浅で広大な干潟を有していたことから、貝類主体の漁業生産量が多くありましたが、昭和37年に貝類やノリ養殖などの漁業権漁業などが、昭和43年は小型まき網漁業などの許可漁業が廃止され、埋め立てによって漁場は縮小し続けています。

現在は、スズキやカレイを対象とした刺網漁業のほか、アサリ漁業やアナゴ筒漁業などが営まれています。



スズキ



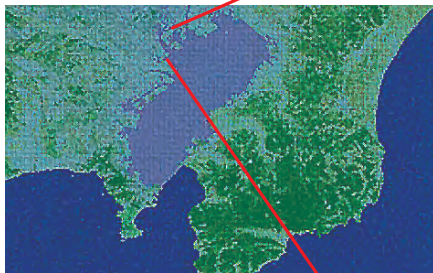
アサリ



アナゴ漁業

*東京湾を観音崎（神奈川県）と富津岬（千葉県）とで結んだ線で南北に分け、北側を「内湾」、南側を「外湾」と呼びます。本プランでは、「内湾」のうち、東京都の海域に属する部分を特に「東京内湾」と呼んでいます。

東京内湾海域図



東京湾



3 内水面の水産業

多摩川など都内の内水面では、漁業協同組合がアユやヤマメなどを放流し、釣り人は遊漁券を購入して釣りをしています。

また、上流域ではヤマメやニジマスなどマス類を対象とした養殖業が、下流域ではシジミやウナギを対象とした漁業が営まれています。

なお、多摩川では近年アユの遡上数が急激に増加しています。



シジミ漁業



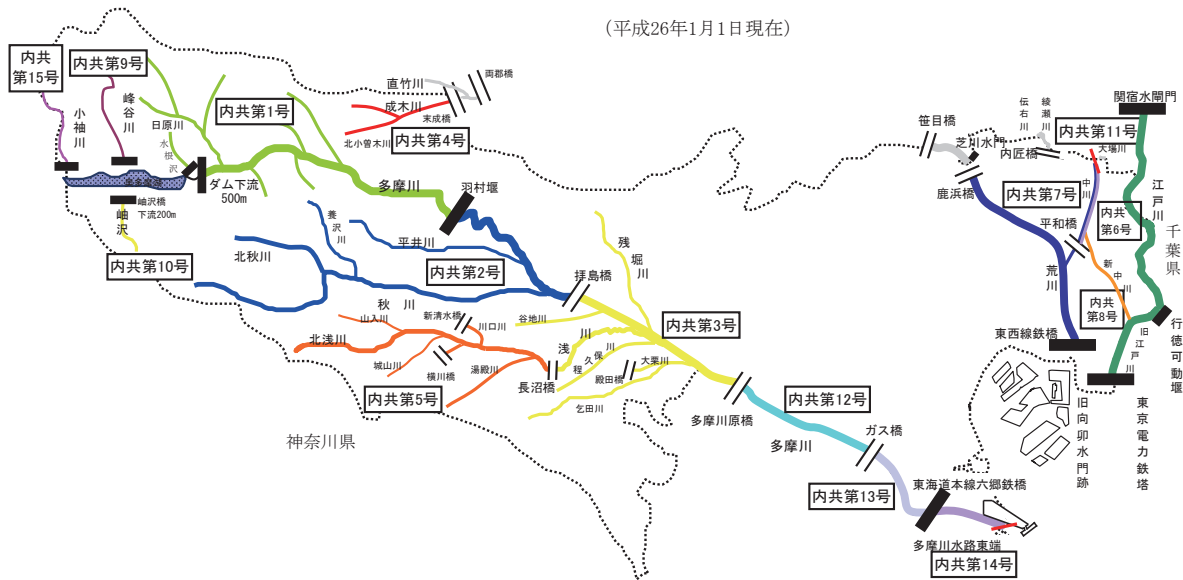
アユ



ヤマメ

内水面漁業権漁場図

都は、多摩川や江戸川などに漁業権を設定し、免許を受けた漁業協同組合は、魚類の放流など漁場の管理を行っています。



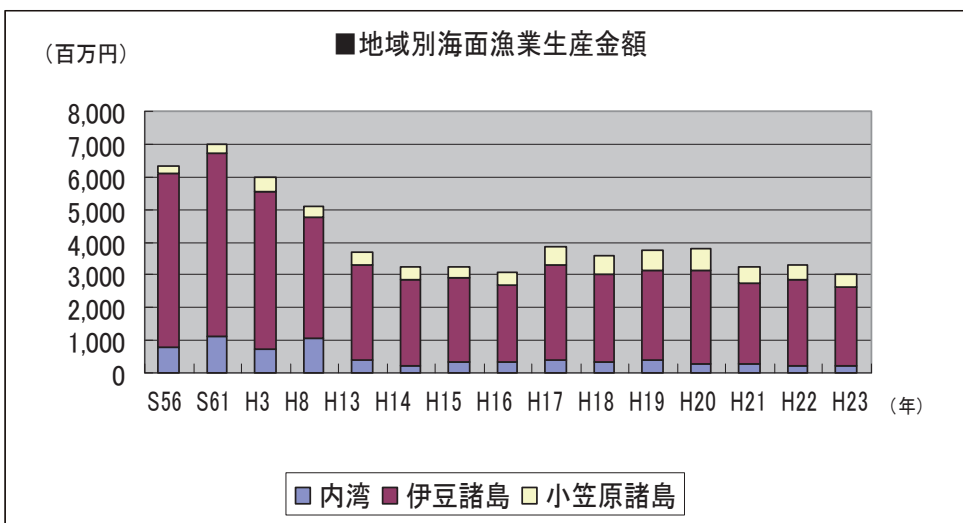
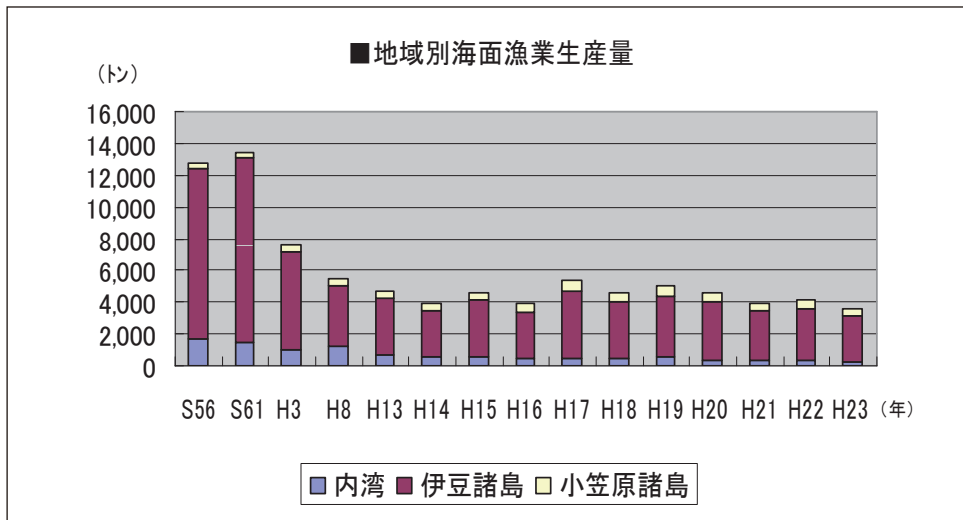
免許番号	種類	漁業協同組合名 (◎印は代表)	魚種	免許期間
内共第1号	第5種共同	◎奥多摩 氷川	あゆ、にじます、やまめ、いわな、こい、ふな、うぐい	平成25年9月1日 ～ 平成35年8月31日
2号	〃	◎秋川	あゆ、にじます、やまめ、こい、ふな、うぐい、うなぎ、おいかわ、かじか	
3号	〃	◎多摩川	あゆ、こい、ふな、うぐい、おいかわ、うなぎ	
4号	〃	◎奥多摩	あゆ、にじます、やまめ、こい、ふな、うぐい	
5号	〃	◎多摩川 思方	あゆ、にじます、やまめ、こい、ふな、うぐい、うなぎ、かじか	
6号	〃	◎東京東部	こい、ふな、うなぎ	
第1種共同	〃	◎東京東部 大田 芝 港 佃島 中央隅田	えむし、しじみ	
8号	〃	◎東京東部	えむし、しじみ	
9号	第5種共同	◎小河内	にじます、やまめ、いわな、うぐい	
10号	〃	◎小河内	にじます、やまめ、いわな、うぐい	
11号	第1、5種	◎東京東部 埼玉東部 市川市行徳 南行徳 松戸市	しじみ、えむし、こい、ふな、うなぎ	
12号	第5種共同	◎多摩川 川崎河川	あゆ、こい、ふな、うぐい、おいかわ、うなぎ	
13号	第1種共同	◎多摩川 大田 川崎河川	えむし、しじみ	
14号	第1種共同	◎大田 芝 港 佃島 中央隅田 東京東部 川崎河川	えむし、しじみ	
15号	第5種共同	◎小河内	やまめ、いわな	

4 漁業生産量など

海面

海面の漁業生産量、金額は、昭和61年にピークに達した後、減少に転じ、近年は4,000トン、30億円前後で推移しています。

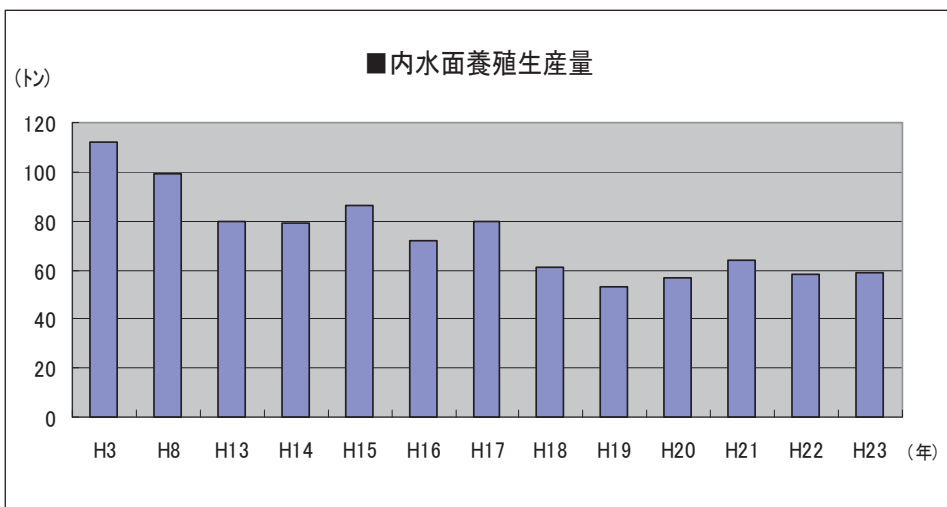
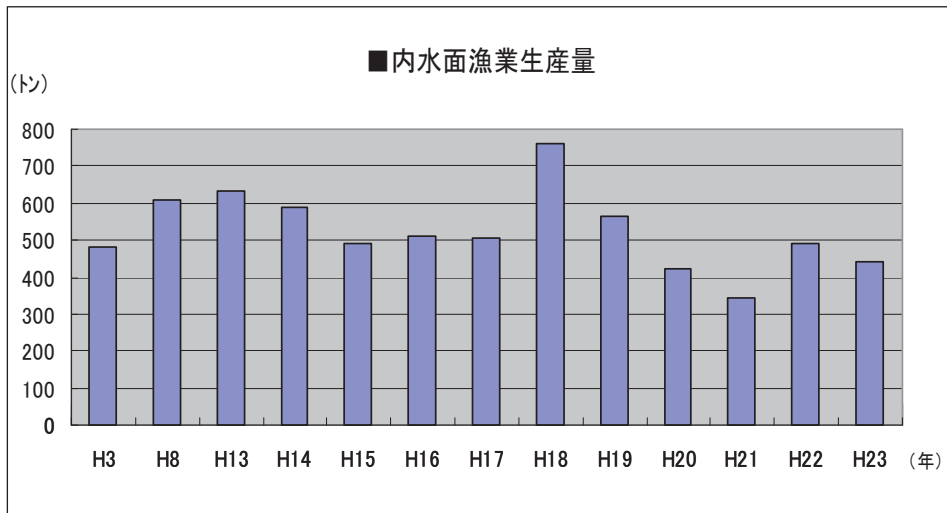
地域別では、生産量、金額ともに伊豆諸島が約8割、小笠原諸島が1割強、内湾が1割弱となっています。代表的な魚種としては、伊豆諸島ではキンメダイやトビウオ、小笠原諸島ではメカジキやハマダイ、内湾ではスズキ、アサリとなっています。



出典：東京都の水産

内水面

内水面の漁業生産量は、近年シジミを中心に500トン前後で推移しています。また、養殖生産量は徐々に減少しており、ニジマスを中心に60トン前後で推移しています。

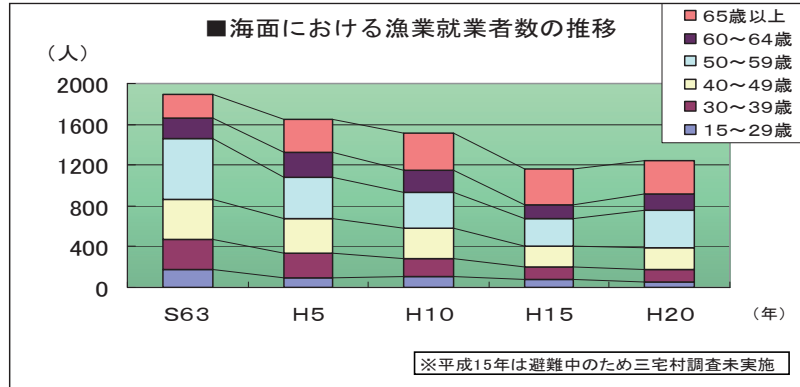


*生産金額の調査は実施していない。

出典：漁業・養殖業生産統計（農林水産省）

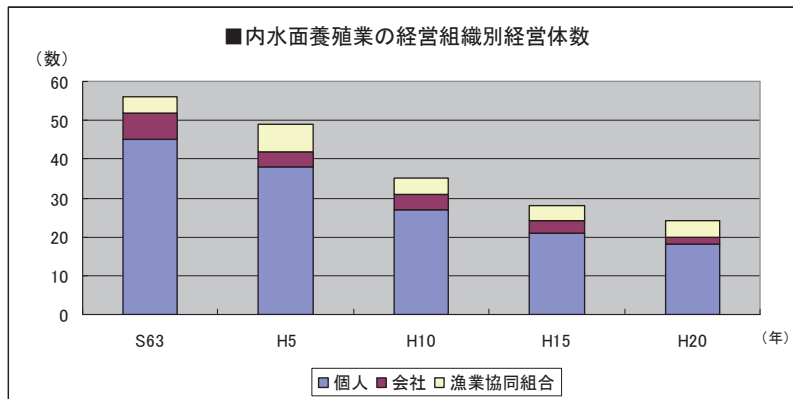
5 漁業就業者数など

海面の漁業就業者数は20年間に約35%減少して約1,200人となり、その内60歳以上の就業者の割合が約4割となるなど高齢化も進んでいます。



出典：漁業センサス（農林水産省）

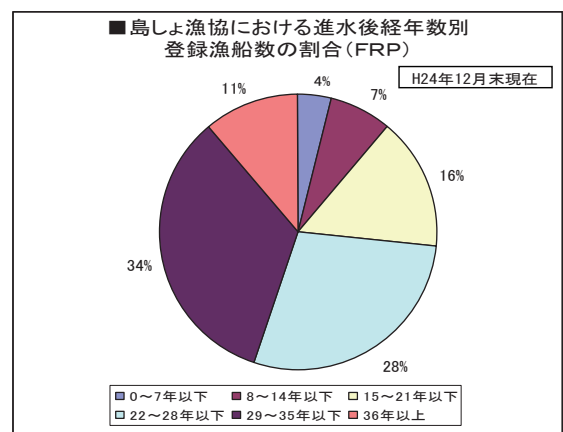
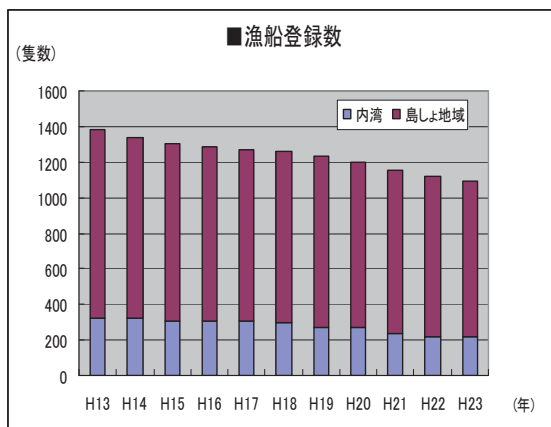
内水面養殖業の経営体数は、20年間で半数以下の27経営体に減少しました。



出典：漁業・養殖業生産統計（農林水産省）

6 漁船数

漁船数はこの10年間に約20%減少して約1,100隻となるほか、半数近い45%の漁船が進水から29年以上経過するなど老朽化も進行しています。



出典：東京都の水産

7 漁業協同組合

漁業協同組合は、組合員が漁業を行うにあたって必要となる各種施設の整備や漁獲物の販売など、漁業生産活動の中核的な組織として重要な役割を果たしています。

島しょ地域では、平成13年以降に八丈島、新島、大島の島内組合の合併が進み、現在は12組合となっています。(大島には2組合、その他各島に1組合)

■ 漁業協同組合数

H24.3現在

種 別		組 合 数
地区別漁業協同組合		24
	東京内湾	6
	島しょ地域	12
	内水面	6

出典：東京都の水産

8 島しょ地域の漁港・港湾

島しょ地域には、漁船の利用範囲に応じて第1種*から第4種の漁港が23港存在するほか、漁船の重要な泊地として活用されている港湾や、港湾内に整備された小型船溜も存在します。

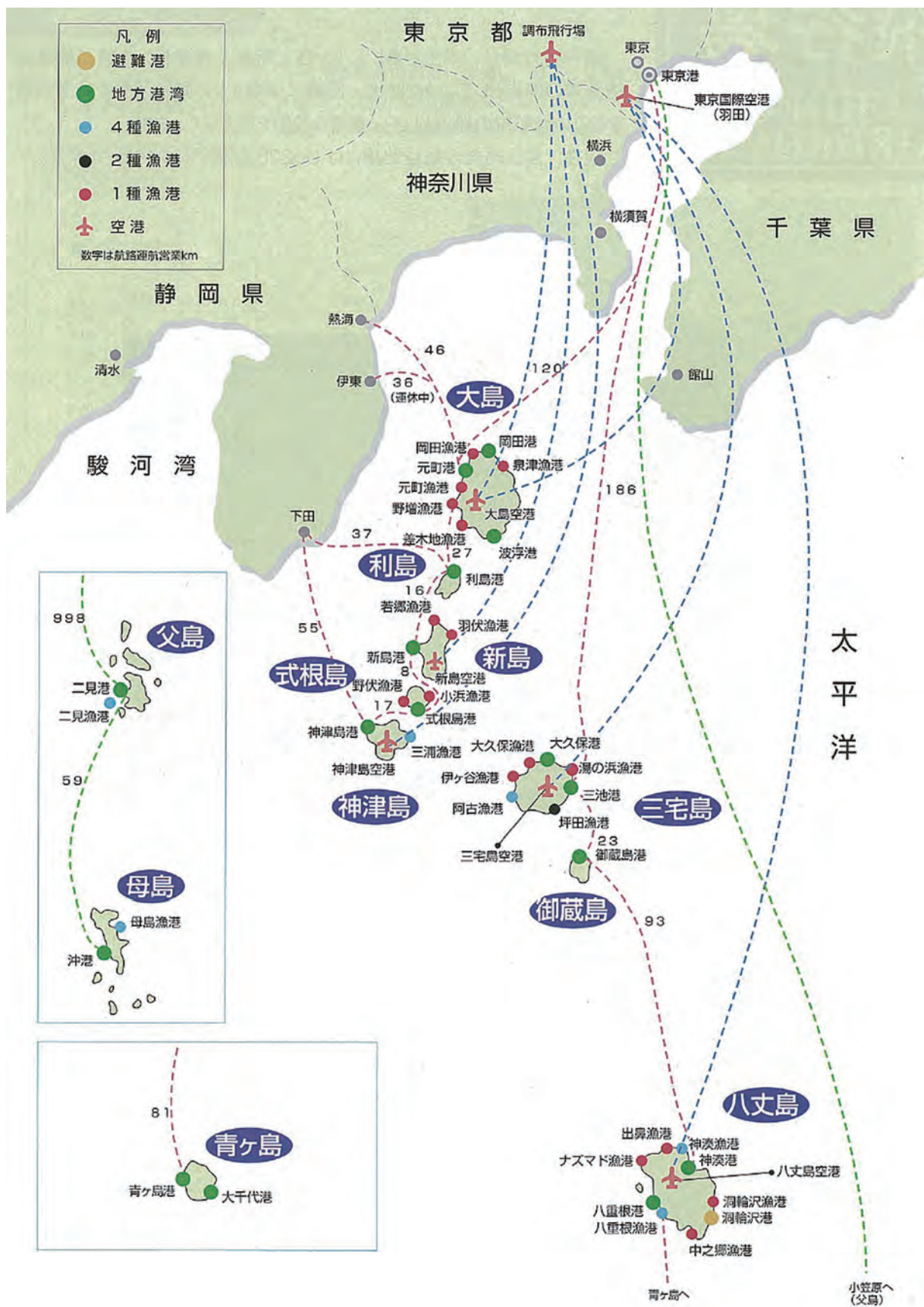
■ 漁港・港湾数

H24.3現在

種別	港湾	漁港		
	地方港湾	第1種	第2種	第4種
計	16	16	1	6

出典：伊豆・小笠原諸島港湾・漁港・空港・海岸

- *第1種漁港：利用範囲が地元漁業を主とするもの
- 第2種漁港：利用範囲が1種漁港よりも広く3種漁港に属しないもの
- 第3種漁港：利用範囲が全国的なもの
- 第4種漁港：離島その他辺地にあつて漁場の開発、または漁船の避難上特に必要なもの



出典：伊豆・小笠原諸島
港湾・漁港・空港・海岸